



大江の風

11月26日
No.67



『ホンモノにふれ感性を育む授業づくり』

熊本市では、「ホンモノにふれ感性を育む授業づくり」という事業を平成17年度から行っています。本物にふれたときの感動は、子どもたちに夢を与え、感性をみがくうえで、大きな効果があります。本年度、大江小はこの事業に申し込み、うれしいことにすばらしい音楽家をお招きすることができました。まずバイオリニストの上野清輝様。上野様は、ノルウェー国立トロンハイム交響楽団のバイオリン奏者で、世界中を演奏会でまわられています。今回は韓国でコンサートがあって、その足で日本に戻られ、大江小に来ていただきました。もう一人はピアニストの中川大様です。中川様も国内外でピアニスト、そして指揮者としてモリサイタルコンサートを開催されご活躍です。エストニア・タリン室内管弦楽団の指揮をされたり、熊本市現代美術館のオープニングセレモニーで演奏されたりしました。お二人は、熊本のご出身で、熊本の子どもたちに、ほんものの演奏を聞かせたいと、お忙しい中時間を調整して大江小にきてくださったのです。大江小の子どもたちは、とてもラッキーです。

中川様は「エリーゼのために」を告白をテーマに解説しながら弾いてくださいました。作曲者が本当に悩んでいるように聞こえました。おもしろかった～

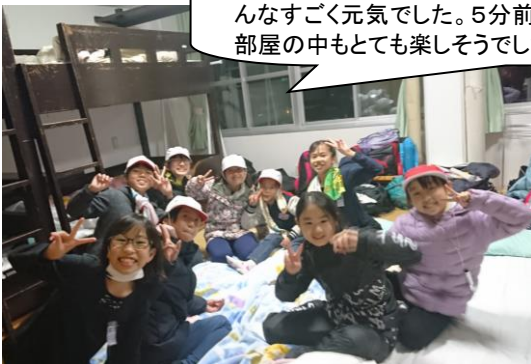


バイオリンとピアノの音色にうっとり。上野様が「バイオリンは羊の腸を馬の尻尾でこすっていい音が出るんだよ。」と。子どもたちはびっくり！そして子どもの質問は「そのバイオリンはいくらですか？」でした。芸能人格付けランキングの番組をよくみているのかな？(笑)

お二人の演奏はそれはそれは素晴らしく、私たちが耳にしたことのあるバッハやベートーベンの曲から情熱大陸、クリスマスソング、さんぽなど、1時間があつという間でした。1年生は退屈しないかなと心配しておりましたが、なんのその・・・とても熱心に楽しく聴いていました。子どもたちの聴くマナーがとてもよく、また思わず手拍子をしたり歌ったりノリノリで、演奏者のお二人もとても喜んでいらっしゃいました。本当にホンモノにふれるっていいなあ～と実感しました。5年生は宿泊教室で参加できず残念。また来年度も応募するからね。

おまけ

5年生の宿泊教室は、金峰山少年自然の家が使えなくなったので今年から阿蘇青年自然の家で。昨日夜だけ応援にいきました。みんなすごく元気でした。5分前行動もちゃんとできていましたよ。お部屋の中もとても楽しそうでした。ちゃんと寝たかしら・・・



阿蘇はバイキングで食事がとってもよかったです。みんなもりもりお替りして食べていました。なんと飲み物もいろいろありました。

ひまわり学級さんが、白川中・白川小のみんなと一緒に芋ほり。去年はまったく取れなかったみたいですが、今年は大小さまざまなお芋を収穫できました。とってもうれしそうでした。おうちにもって帰るのかな？



みんなが楽しみにしていたナイトハイク。星が見えなかったのが残念だったね。

